



教育学部

教授 桑畑美沙子さん

Kuwahata Misako

## ●プロフィール

1969年 日本女子大学通信教育部卒業  
 1972年 日本女子大学大学院修士課程入学  
 1974年 熊本大学教育学部講師  
 1997年 熊本大学教育学部教授  
 2008年 博士号を取得

## 「女の子だから」の声を逆に原動力にして

鹿児島県生まれの桑畑さんは、高校2年で父親を亡くし、夫の死をきっかけに働き始めた母親と三人姉妹という<sup>ひとりおや</sup>単親家庭で育ちました。「『母子家庭』だし、女の子なんだから、大学に行かずに働けばいいんだ」という声に負けず、鹿児島県立短期大学家政科に入学します。化学が好きで理系分野の4年制大学に進みたかった桑畑さんに、高校の家庭科の教師が「短大だけど、食物は理系だから、あなたにあっていと思うよ」と勧めてくれたからです。

栄養士の養成課程を修了し、1964年には母校の助手になり、その後取得した管理栄養士の資格を生かして1969年からは保健所の栄養技師として働きました。20代後半になり、将来の仕事について考えた桑畑さんは27歳で仕事を辞め、28歳で日本女子大学大学院家政学研究科に進学します。

## 家庭科の男女共学を提唱

熊本大学教育学部で家庭科教育に携わってきた桑畑さんですが、1970年代の家庭科は、性によって役割を分担して生きることを前提にした、いわば専業主婦を養成するための女子用の教科でした。そこに性差別が存在することに気づいた桑畑さんは、男女に関係なく生活的自立をめざす教科とすべく、家庭科の男女共学を提唱します。そして、主婦になったときに役立つ知識と技能を教える家庭科でなく、主体的な生活者をはぐくむ家庭科をめざす研究に着手します。

現在も、その研究を、熊本大学赴任と同時に加入した「熊本県家庭科サークル」の仲間たちと続け、例えば「だご汁」のように庶民の知恵と工夫の足跡が学べる、いわば「地域の食文化」に視点をあてた家庭科の授業実践を『食べものを教える』『女と男の未来学』『わくわく食育授業プラン』等の本として出版されています。

2008年3月には、そのような長年にわたる研究をまとめて、栄養学博士の学位を取得しました。

## まず、自分から一步を踏み出そう

35歳の時、桑畑さんは非嫡出子を出産されます。乳児保育園に子どもを預けながら、母子ふたりの生活が始まりました。子どもを預けて働く親たちには様々な悩みがあります。お互いに語り合う中でいつしかネットワークができ、助け合いながら子育てできたといいます。しかし、一方でかなりのバッシングも受けたそうです。「今、思うとセクハラだったんですね、その時はわからなかったけど」と振り返る桑畑さん。不登校や「ヤンチャ」を経験し成人した息子の存在に、「子育てを通じて多くの人と出会えし、知らなかった世界を体験できた。なにより私が人間として成長できた。」と、いいます。

多くの子どもたち、若者たちへの桑畑さんからのメッセージは「人にはいろいろなマイナスが降りかかってくる。マイナスだと思ふことでも、それをプラスに転じることはできる。マイナスをプラスに転じて人生を生きて欲しい」。社会が変化するのを待つのでなくて、能動的に動くことが大切だと強調されました。



実習を通して「味噌を作る」授業の意義を話し合う。

「マイナスをプラスに転じる」人生を。